





県土の復興さらに加速

福島県土木部長 大河原 聡

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
東日本大震災から間もなく6年を迎えようとしております。昨年は、復興・創生期間の初年であり、東北中央自動車道福島JCT～福島大笹生IC間やふくしま復興再生道路である小野富岡線（五枚沢1工区）の開通、相馬福島道路や会津縦貫南道路の整備進展、相双地域で最初

の復興公営住宅となる北原団地の完成など、県内各地で復興の光が強まりを見せてまいりました。

今年は、復興・創生期間の2年目であり、県土の復興をさらに加速させる年です。県土復興に向けて、「ふくしまの未来を拓く県土づくりプラン」のもと、安全と安心、活力、思いやりを3つの柱に、被災地域はもとより、県全体でその地域が持っている力を最大限に発揮できるよう、全県的に公共土木施設の整備を展開してまいります。

平成29年は、復興公営住宅整備の総仕上げの段階としてさらなる整備推進に努めるとともに、避難解除等区域やその周辺の広域的な物流や地域医療等を支援するふくしま復興再生道路の整備や津波被災地の災害復旧工事、防災緑地の整備に全力を尽くしてまいります。

県全体としては、広域的な連携・交流を支え地域の活力を高める災害に強い

道路ネットワーク整備や、県民生活の安全・安心を支える治水・砂防対策、良好な市街地形成を図る都市基盤の整備、海上物流の拠点となる港湾整備などを計画的に進めるとともに、建設から長期間が経過する施設の増大に対応するため、長寿命化計画に基づき、予防保全の考え方を取り入れた対策を計画的に進めてまいります。

また、再生可能エネルギーの導入を推進し、四時ダムESCO事業などの取組に加えて、緊急輸送路や道の駅などの管理に必要な電力確保のため、あぶくま高原自動車道などにおいて太陽光発電の整備を進めるとともに、小型風力発電など、太陽光以外の発電方式の導入の検討も進めてまいります。

さらに、社会資本の整備を支援する取組として、公共工事の生産性向上や労働災害防止の観点からICTの活用は大変有効であると考えており、平成29年度以降、県発注工事における活用など、ICTの導入を積極的に推進してまいります。

最後に、担い手の育成・確保については、福島県建設業審議会からの答申を受けて、3月までにアクションプランを策定し、建設業に携わる皆様が誇りと意欲を持ち続け、若い技術者が数多く育っていく環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

震災以降、復旧・復興需要の増大に伴い建設産業界を取り巻く状況がめまぐるしく変化する中においても、復興の最前線で活躍されている皆様は、本県の元気の源であり、復興の牽引役であります。

県土木部では、県民の皆様がより一層復興を実感できるよう、県民生活の安全・安心を最優先に、県土づくりと復興の礎となる社会資本の整備に職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

平成28年度経営改善研修会



組織内コミュニケーション勉強

若手社員との「コミュニケーション」の取り方などを学んだ研修会（上）と講師の伴氏

当協会は昨年10月26日、福島市のアオウゼで平成28年度経営改善研修会を開いた。

生産年齢人口の減少に伴い、中小企業経営者が直面する人材の確保・育成が今回のテーマ。損保ジャパン日本興亜ビジネスソリューションズの伴高伸モーター・SS支援部企画グループ長が講師を務め、「組織活性化による収益アップ研修」と

して、若手社員のスキルアップや定着率の向上を図るための手法など、時代に即した人材マネジメントの仕方を学んだ。研修会は経営委員会主管事業。会員企業の経営体質強化を図るため毎年開いており、今回は会員企業の経営者ら約30人が受講した。

初めに経営委員会担当の石田享也副会長があいさつし「当社も若い社員間のギャップの拡大、個人

の人間関係や教育には苦慮している。研修で学んだことを各社に持ち帰り、若手社員とのコミュニケーションがうまくとれるように心がけたい」とあいさつした。

講義は①組織内コミュニケーションの必要性②統制型組織から学習型組織へ③コーチングとは④承認・傾聴・質問のスキル⑤従業員満足度(ES)を高めるには⑥5本立て。

社会環境の変化や世代間ギャップの拡大、個人間のコミュニケーションの質問「のスキルを磨く

必要があることを学んだ。経営者は「過去の成功体験が通用しなくなった」「社内の会話が少なくなった」「従業員のベクトルが合わなくなってきた」「指示・命令型では従業員が動かなくなってきた」「顧客のニーズ、期待が高くなってきた」などの悩みを抱えており、講義では、こうした環境変化に対応するため、組織内のコミュニケーション強化の必要性を強調。トップダウンによるこれまでの「統制型組織」から、部下が自ら考え、答えを出して行動する「学習型組織」への転換を促した。

学習型組織に脱皮するための手法として「コーチング」も学んだ。教え指導する「ティーチング」と異なり、その人が持つ能力や可能性の発揮をサポートするやり方で、そのためには①部下の存在を認める「承認」②部下の話を聴く「傾聴」③隠れた能力やモチベーションを引き出すための「質問」のスキルを磨く

石田・小板橋JVに優良工事表彰

郡山市 保健所空調改修で

郡山市の平成28年度優良建設工事表彰で、当協会会員から石田・小板橋特定JV(株)石田工業所・(株)小板橋工業所)が施工

した郡山市保健所空調設備改修工事が受賞した。表彰式は昨年10月12日、市役所正庁で行われ、品川萬里市長が各社の代表者と現場代理人に賞状を授与。「受賞を機に一層の技術向上、人材の育成に努め、建設業界の模範としてさらに尽力、市勢発展に貢献してほしい」と訴えかけた。

水道局発注分を合わせ27年度竣工の205件の中から、出来形、品質管理、安全管理等の面で特に優れた工事を選んだ。

建設現場で20年以上にわたり工事施工に直接従事。技術・技能が優秀であることに加え、技術開発・施工合理化への顕著な成績や、後進の指導・育成への取り組み、安全衛生の向上など、模範的な建設現場従事者であることが選定のポイントとなる。

堀さん、会長顕彰

優秀施工者「受賞機にさらに精進」



堀勝彦さん

県と県建設産業団体連合会(小野利廣会長)に今年度、当協会から(株)倉工業所の堀勝彦さんが、県建設連合会長顕彰を受けた。顕彰式は昨年11月1日、福島市の杉妻会館で行われた。受賞者と建産連加盟団体の代表者らが出席。知事顕彰受賞の2人に内堀知事から感謝状、建産連会長顕彰受賞の16人の代表に小野会長から賞状が手渡された。

堀勝彦さん 今回の優秀施工者顕彰受賞は、監督員や会社の諸先輩・同僚のご指導と工事関係者の努力、地域住民皆様のご協力のおかげと感謝しております。今後とも日々努力し精進してまいります。

安全競争 管工事部門 優勝は文化設備 建災防大会で県支部長表彰

建設業労働災害防止協会県支部(小野利廣支部長)主催の第50回県建設業労働災害防止大会は昨年7月28日、福島市の県建設センターで開かれ、27年度安全競争表彰・管工事部門で、文化設備工

「厳しい環境下であつても、災害はあつてはならない。安全衛生活動に積極的に取り組み、計画・継続的に推進するシステムを構築、定着させてほしい」と述べ、安全衛生水準向上への一層の取り組みを求めた。

労働災害防止に功績のあった支部長賞の6事業場、25人と安全競争で優秀な成績を収めた延べ20

大会では小野支部長が

「厳しい環境下であつても、災害はあつてはならない。安全衛生活動に積極的に取り組み、計画・継続的に推進するシステムを構築、定着させてほしい」と述べ、安全衛生水準向上への一層の取り組みを求めた。

労働災害防止に功績のあった支部長賞の6事業場、25人と安全競争で優秀な成績を収めた延べ20

表彰式は昨年9月13日、福島市の杉妻会館で行われ、内堀知事から各受賞者に、表彰状と記念の盾が授与された。

式には内堀知事はじめ小野和彦農林水産部長、大河原聡土木部長ら両部幹部が列席。来賓として県議会の杉山純一議長、遊佐久男農林水産、矢吹貢一土木両委員長、関係団体から小野利廣県建設産業団体連合会長、鈴木武男県建設業協会専務理事、柳沼秀徳県土地改良

建設協会会長、齋藤卓夫県森林・林業・緑化協会会長、松原文司県管工事協同組合連合会長、坂本幹夫県電設業協会会長と、当協会の松原兼一会長が出席した。

内堀知事が式辞を述べ「皆さんと一丸となって進めている復旧・復興への取り組みが実を結んできている。この流れをより確かなものとし、復興を前に進めていくため、一層の力添えを願いたい」と呼びかけた。

杉山議長が「本県の復興はいまだ途上。安全・安心して生活できる生活基盤の整備が強く求められている中で、日々技術の向上に努め良質な社会基盤の整備に実績を上げている皆さんの存在は心強い。豊かで活力あふれるふるさとふくしま再生のためさらに尽力してほしい」と祝辞を述べた。

県の優良工事表彰は、県発注建設工事の技術向上と安全な施工確保を目的として行っており、28年度で48回目。今回34社が受賞した。

